



KEIO 150
Design the Future

150th Anniversary in 2008

体育研究所 新棟完成記念 フォーラム

2008.6.15

慶應義塾大学日吉キャンパス
スポーツ棟2階会議室

慶應義塾大学体育研究所

体育研究所 新棟完成記念フォーラム

10:00~10:05
体育研究所長挨拶

う え だ ふ み お
植田史生 体育研究所長

10:10~12:10

シンポジウム 1

“東・京・早・慶”これからの健康・スポーツ科学を考える

健康科学「スポーツ科学」は学際領域に位置する言わば「融合の科学」であり、故にその研究分野も多岐に渡る。本シンポジウムでは、東京大学・京都大学・早稲田大学から専門領域の異なる気鋭の研究者を招聘し、各々の研究の概要と今後の指針を情報交換することにより、四大学のこれからの健康・スポーツ科学研究はどのように発展していくべきかを考えていく。

司会

むら まつ ただし
村松 憲 体育研究所専任講師



骨格筋の適応のメカニズムとその応用 —トレーニングから先端医療まで—

い し い なお か た
石井直方

東京大学大学院 総合文化研究科教授



1982年東京大学大学院理学系研究科修了、理学博士。東京大学理学部動物学教室助手、東京大学教養学部(1995年より大学院総合文化研究科・生命環境科学系)助教授を経て現職。専門は筋生理学、運動・トレーニングなどの環境要因に対する筋・骨格系の適応のメカニズムを、遺伝子、細胞、個体レベルで調べ、得られた知見をもとに、新しいトレーニング法や運動システムの開発・応用を試みている。日本動物学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本比較生理生化学会、日本生物物理学会、日本体育学会会員。前NSCAジャパン理事長、(社)日本ボテビル連盟指導委員長、日本パワーリフティング協会医科学委員。

筋疲労軽減のための協働筋 の活動ストラテジー

こう ぎ き も と き
神崎素樹

京都大学 人間・環境学研究科准教授



1999年東京大学大学院総合文化研究科修了、学術博士。東京大学大学院総合文化研究科助手を経て現職。専門は神経生理学、なぜ単純な関節運動でさえ複数の筋群の参加が必要なのかという素朴な疑問から、協働筋の機能的意義について神経生理学的・生体工学的観点から解明している。北米神経科学会、アメリカスポーツ医科学会、日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学会会員。

近代スポーツとイギリス人： 社会史的観点から

い し い ま さ ゆ き
石井昌幸

早稲田大学 スポーツ科学部准教授



1988年早稲田大学教育学部卒業。2001年京都大学人間・環境学研究科(ヨーロッパ文化・地域環境論専攻)博士課程単位取得退学、教育学修士、広島県立大学専任講師(2001~2003年)を経て現職。専門はスポーツ史、いわゆる近代スポーツは、イギリスでいつ頃、いかにして生まれたのか、について社会史的な観点から研究している。スポーツ史学会、日本スポーツ人類学会、西洋史学会会員。

脳筋電図コヒーレンス解析法を 用いた四肢筋群運動制御機構の 解明への試み

う し や ま じ ゅ ん い ち
牛山潤一

慶應義塾大学 体育研究所助教



2000年慶應義塾大学環境情報学部卒業。2005年東京大学大学院総合文化研究科修了、学術博士。専門は神経生理学、普段我々が何気なく行っている運動行動を、脳を含む神経系はどのように形成・制御しているのか、脳波や筋電図などの神経生理学的な手法から理解することを試みている。北米神経科学会、アメリカスポーツ医科学会、日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本バイオメカニクス学会会員。

12:10~13:30

休憩

研究成果ポスター掲示、動作解析デモンストレーション



KEIO 150
Design the Future

150th Anniversary in 2008

13:30~13:50

所長講演「体育研究所の使命」



うえだ ふみお
植田史生 体育研究所長

14:00~14:40

塾長講演「未来先導と体育・スポーツ」



あんざい ゆういち ろう
安西祐一郎 慶應義塾長

14:50~16:50

シンポジウム 2

慶應義塾のスポーツ教育を考える～義塾150年によせて～

150年を迎えた慶應義塾における「体育・スポーツのあり方」について、塾内の様々な立場から意見を交わし、今後の体育研究所活動の礎を見出したい。

司会

むらやま みつよし
村山光義 体育研究所准教授



慶應義塾のスポーツ教育

やまざき はじめ
山崎 元
慶應義塾 常任理事



1943年生まれ。1968年慶應義塾大学医学部卒業。1969年医学部助手。1977年ペンシルベニア大学心臓病学フェロー。その後、大学スポーツ医学研究センター助教授を経て1995年同教授。2008年名誉教授。1994年より1998年まで義塾高等学校長。1997年より大学スポーツ医学研究センター所長。2001年初代看護医療学部長。同年より常任理事。専門領域「心臓病学・スポーツ医学」。医学博士。

大学体育に期待するもの

はせやま あきら
長谷山 彰
慶應義塾大学 文学部長



1952年11月22日秋田市に生まれ、仙台市に育つ。1975年慶應義塾大学法学部卒業。1979年慶應義塾大学文学部卒業。1984年同大学院博士課程単位取得満期退学。駿河台大学法学部教授を経て1997年4月より慶應義塾大学文学部教授。2001年より2005年まで慶應義塾大学学生総合センター長を務める。2007年より文学部長、斯道文庫長。日本法制史専攻。法学博士。著書に『日本古代の法と裁判』（創文社）、『律令外古代法の研究』（慶應義塾大学出版会）『新裁判の歴史』（共著）（成文堂）などがある。

教養としての身体知と体育

よこやま ちあき
横山千晶
慶應義塾大学 教養研究センター所長



慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了、現在法学部教授、および慶應義塾大学教養研究センター所長（2004年より）。専門は19世紀のイギリス文学・文化。教養研究センターではさまざまな研究プロジェクトを通して、次世代に伝えるべき知とは何か、そして次世代をになうリーダーシップのあり方はどうあるべきかを学部横断的に教職学生一体で模索している。現在の教養研究センターが目指す知のあり方は、座学のみならず、経験や感動を通して知の体系を切り開き、自分の頭と身体に住まわせていくと同時に、身体を使って発信していく方法である。教養研究センターではそのような「知」を身体知として、研究と実践を行っている。

体育研究所のスポーツ教育・振興策

いしで やすし
石手 靖
慶應義塾大学 体育研究所准教授



1961年（昭和36年）11月4日東京都生まれ。1984年慶應義塾大学商学部卒業。同年慶應義塾大学体育研究所助手。1990年順天堂大学大学院体育学研究科（コーチ学専攻）修士課程修了。慶應義塾大学体育研究所助教授を経て2007年より同研究所准教授。1997年塾派遣留学生として米国留学（1年間）。2000年より慶應義塾大学体育会副理事、2005年より慶應義塾大学体育研究所学習指導主任および学生総合センター副部長を務める。専門領域は体育方法。主な担当科目はバレーボール。ここ数年はスポーツ、文化、キャンパスライフ、地域をキーワードとして大学のできるスポーツ振興策を模索中。

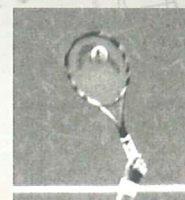
「動作分析ソフトウェア・ダートフィッシュを用いた解析」

授業・指導場面において「ダートフィッシュチームプロ」の映像遅延再生・シナリオ再生機能を活用した事例を紹介。合成表示や残像表示(右写真)などの作成法もデモします。



「携帯型デジタルハイスピードカメラを用いた解析」

外部電源が取れない場所でも撮影可能な、携帯型デジタルハイスピードカメラの活用方法を紹介。実際にテニス・ゴルフ・バドミントン等の撮影&フィードバックも行う予定ですのでお気軽にご参加ください(用具は準備します)。



タイムテーブル 2008.6.15

9:30～ 受付(スポーツ棟1F コーディネートオフィス)

10:00～ 体育研究所長挨拶

10:10～ シンポジウム 1 「“東・京・早・慶”これからの健康・スポーツ科学を考える」

12:10～13:30 休憩

動作解析デモンストレーション(スポーツ棟1F 動作解析室)
研究成果ポスター掲示(スポーツ棟2F ラウンジ)

13:30～ 所長講演「体育研究所の使命」

14:00～ 塾長講演「未来先導と体育・スポーツ」

14:50～ シンポジウム 2 「慶應義塾のスポーツ教育を考える～義塾150年によせて～」

17:00～ レセプション(来往舎 ファカルティ・ラウンジ)